

R 5.10.9

目

本

新

聞

おかしと私の物語

清水小5年

鬼塚 莉央

「あっ、またおかしにまほうをかけられちゃった」。私は小学校5年生。おかしが友達だ。

いつもいやなことがあったら、おかしがまほうをかけてくれる。そして、うれしいことがあった時は、口に入れたおかしたちがカリカリ、トローリと一緒にあってよろこんでくれる。

つい最近、友達とうまくい

かないことがあった。どうすればもっと仲良くできるか、とてもなやんだ。そして私から声をかけることにした。

「今日の放課後、今度ある陸上の宿はく学習のおかしを買いに一緒に行かない」とさそったのだ。すると、友達はニコツとしてうなずいた。

数日後、楽しみにしていた宿はく学習の日をむかえた。おやつの時間に、2人でおかしをほおばった。その後も笑顔で過ごすことができた。

まだまだ、おかしと私の物語は続きそうだ。(鹿児島市)